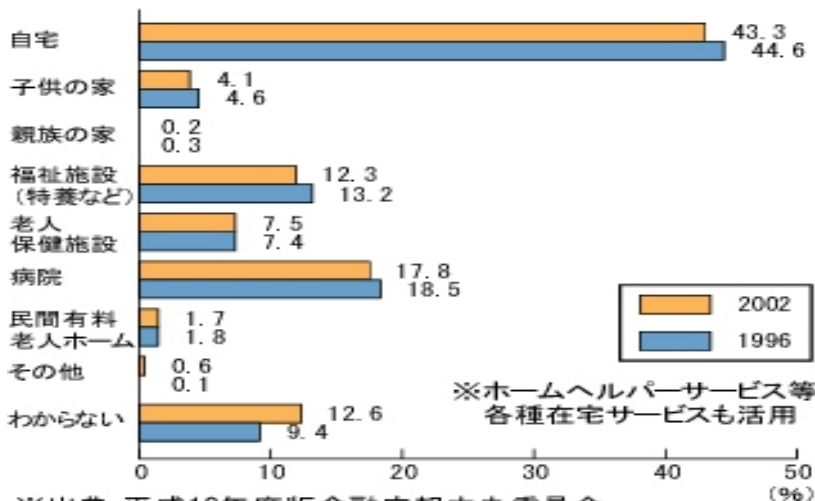


# LARKSPUR ～陽気なコレクティブハウス～

## 1.はじめに

高齢化が進む日本で高齢者の介護問題は大きなものとなっている。自宅で子供に介護してもらえるのが一番と考えている人が多いなか、実際には、経済的精神的な理由で子供にも高齢者にも厳しいものがある。表1より自宅で介護を希望する高齢者が40%を超えるのに対し、子供や親族の家より、施設での介護を希望する高齢者は39%を越えると、高齢者の複雑な思いがわかる。また、表2では、2005年に一人暮らしをしている高齢者が28.9%、夫婦のみで暮らしているが35.1%なのが、来年には一人暮らし30.6%夫婦のみが35.2%と一人暮らしの高齢者が増える予想である。高齢化が進むなか少子化にも目が向けられている。晩婚化などにより、出生率が低下し、表3より、1973年の2.14を境に低下が進み2004年には1.29となった。2008年には1.37と増加したが、それでもまだ少ない。その中で子供の社会性の低下が問題となっている。原因として、都市化や少子化の進展やパソコンなどの普及により、大勢で遊ぶことや、他人と協力し合う機会が減ったことがあげられている。本来子供が社会性を育む場として地域社会が主だったが、子供たちは家の中にこもるようになり、地域と交流する機会が失われてきた。

(表1. 介護を希望する場所)

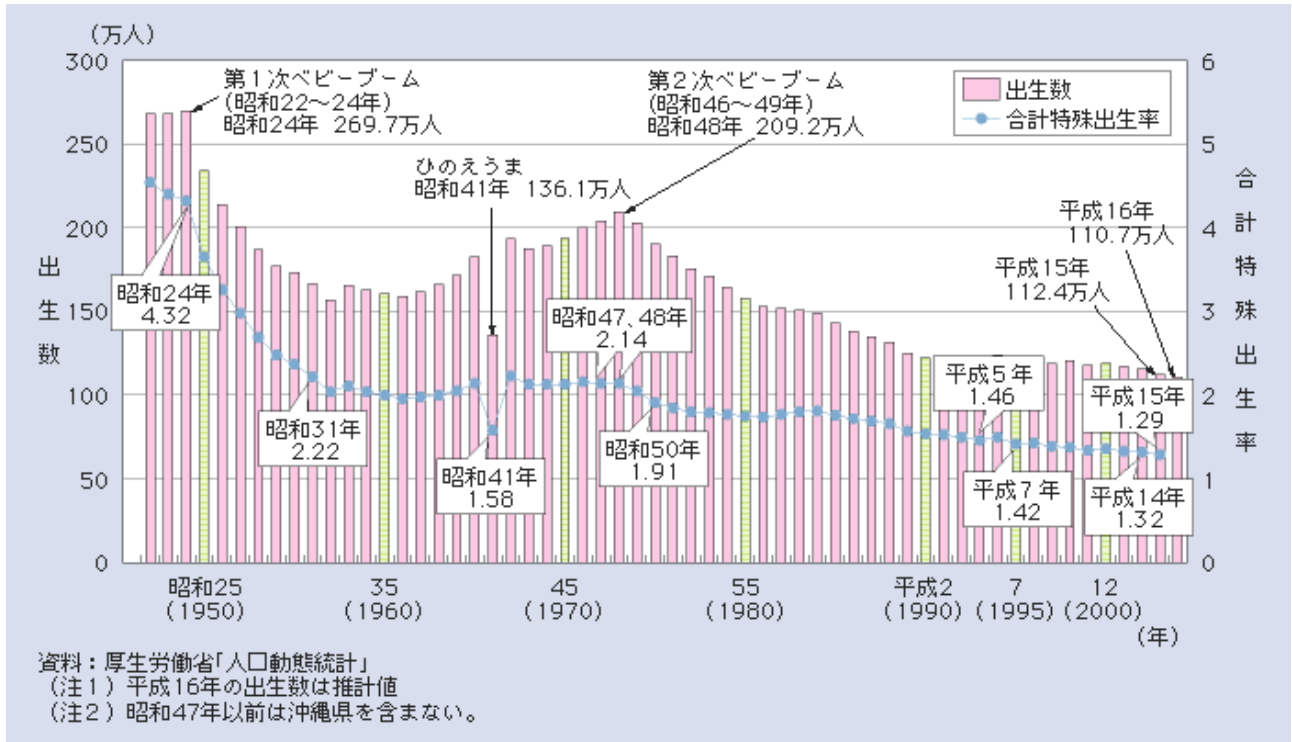


(表2. 老人の住まい方)

資料: ASAHI GLOVAL

	世帯主が65歳以上	一人暮らし(比率)	夫婦のみ(比率)
2000年	1114万人	303万人(27.2%)	385万人(34.6%)
2005年	1338万人	386万人(28.9%)	470万人(35.1%)
2010年	1541万人	471万人(30.6%)	542万人(35.2%)
2015年	1762万人	566万人(32.2%)	614万人(34.8%)
2020年	1847万人	635万人(34.4%)	631万人(34.2%)

表3. 出生率



そこで私が提案するのは、多世代向け集合住宅である。そこでは子供たちは外で遊び、高齢者の手伝いをしながら、社会性を身につけていく。高齢者は子供世代や孫世代に囲まれて有意義な生活を送る。高齢者は孫世代に知識を与え、孫世代は高齢者に生き甲斐を与える。そんな流れが自然と出来る場所である。

## 2. HOME LARKSPUR

ホームラクスポー。ラクスポーの花言葉のように、いつも陽気な集合住宅。

### <SIDE コジロウ 出会い>

いつもの散歩道。いつも思う。このガラスで囲われている中はどうなっているんだ。南側、ガラスに囲われていない部分には畑がある。今も使っているみたいだ。ガラスの北側、天井までガラスだろうという予想だが、なぜかそこから住宅がとび出している。大小合わせて4つ。意味がわからない。あそこはなんだ。ガラスの中を覗きたいが、不審者に思われたくない。どうしたものか。ある日、ガラスの前で少し足を止めていた時、声をかけられた。

「この中に入ってみたいのですか？」

まさかだった。こんなチャンスが来るなんて。

「ぜひ入れていただきたいです。」

「いいですよ。少し手伝ってもらいたいのですが、構いませんか？」

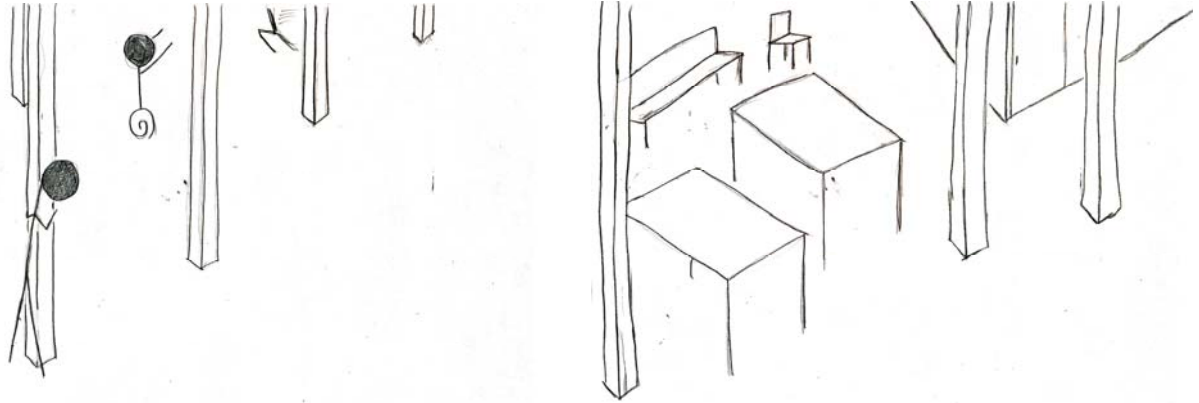
「全然構わないですよ。」

いよいよあのガラスの中がわかる。俺は少なからず興奮していたかもしれない。

「どうぞ」

言われて入ってみたが、よくわからない。東西に長くガラスで囲われているらしく、南側には北側にとび出していた住宅と同じようなものが4、5軒建っている。ガラスの中に、だ。見上げると、何かのツ

ルで覆われていた。時期的に葉が落ちてきてしまっているが、多分ブドウだろうか。ツルの上にはガラスが入っているみたいだった。俺の予想はあっていた。南側から北側に視線をうつした。柱が建っていた。なるほど。とび出していた住宅を支えているのか。見ると数人の子供がその柱を使い、追いかけっこをしていた。ああ、遊具的な働きをするのか。俺は西側から、この中に入った。東側の柱の下、何か置いてある。ちょっと見てこようとしたとき



コジロウ 8歳

「じゃ早速で悪いけど、落ち葉を掃いてくれるかい？」

なんて聞かれるから

「ああはい、わかりました」

なんて言って落ち葉掃きスタート。掃きながら段々東側に行き、ついに何かの正体をつかんだ。それはテーブルと椅子だった。その奥の柱空間は半分壁が設けられていた。悪いと思いつつも、そのドアを開けてみる。キッチンだった。え、ここで誰が飯作るんだよ。結構大きいし。

「あーそこは掃かなくても大丈夫よ。」

なんて言われてしまった。ばれた、怒られるか？なんて思ったら説明してくれた。どうやらここはコレクティブハウスという集合住宅らしい。なんでもこの場合は各家庭にダイニングキッチンがなく、食事はみんな一緒らしい。時間が合わない場合以外は基本全員で準備から片付けまで。だからキッチンは大きく、テーブルと椅子が外のような場所に置いてあるそうだ。なかなか変わったところだな。

「ところで君、今幾つだい？」

急におじいさんに聞かれた。

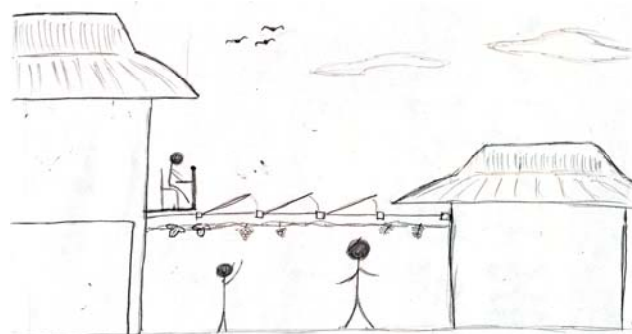
「今 18 です。来年から大学ですよ。」

「おおそうか、どうかな、ここで一緒に暮らさないか？丁度一人用の住戸が開いているよ。」

なんてかえってきた。ええ、話が急だな。でも、悪くない。むしろ良いくらいだ。だとしたら返事は決まっている。

「ええはい、ぜひこちらに入居させてください、名前はコジロウと言います。」

そんな訳で、俺の大学生活は学校だけでなく、私生活も楽しくなりそうだ。



<SIDE カホ 最近の私>

私は小学5年生、カホ。ちょっと変わった集合住宅に住んでいること以外は、いたって普通の小学生。私がこのちょっと変わった集合住宅に住むようになったのは、1年前、小学4年の時。初めは戸惑いだらけだったけど、今では、この場所が好きだ。

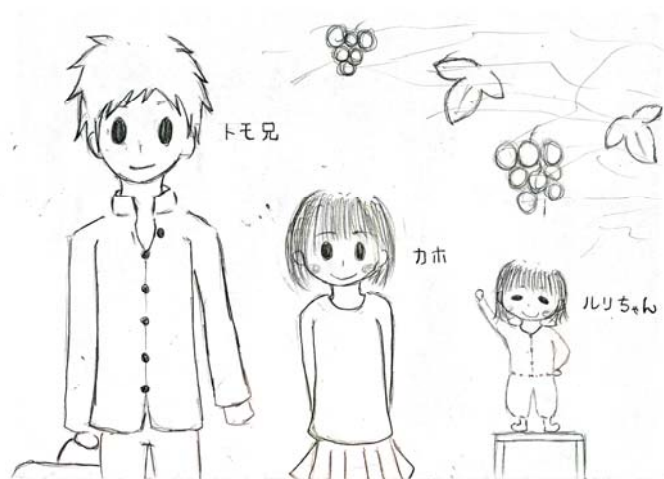
この集合住宅の売りは、多世代向けということらしい。確かに、うちみたいな子連れ夫婦が3組、OLさんが一人、大学生が一人、おじいちゃんおばあちゃんが四人と幅広い。でも、ここの売りはそんなことじゃないと思う。ここの売りは、みんなが仲良しで助け合っているってということだと思う。

いま保育園とかの待機児童が増えているってニュースで見たけど、ここでは無縁の話だよ。だってここでは、おばあちゃん達が小さい子の面倒を見てくれている。それにご飯も作ってくれるんだ。もちろん私だって手伝うよ。両親が共働きだし、二人とも結構忙しいみたいでここに来るまでは、コンビニ弁当がご飯なんて時もあったけど、ここでは絶対そんなことないんだ。それに時間が合う人たちみんな食べるから、いつも誰かと一緒にご飯を食べられるんだ。誰かと一緒に食べるって楽しいよ。それにお手伝いしている時とか、おばあちゃん達がいろいろなことをいっぱい教えてくれるんだ。学校じゃ教えてくれないようなこと。お手玉や竹馬とか、メンコ。お掃除のときには茶がらをまく、みたいなことも教えてもらったんだよ。



それにね、ここに来てから外でいっぱい遊ぶようになったんだ。今までは家の中でゲームしていた方が楽しいって思っていたし、お母さんも外は危ないから家の中にいなさいって言って勉強のワークを私に渡していたの。でも今じゃ家の中で勉強していると、外で遊んできたらって言うんだよ。これもおばあちゃん達が、私たちが遊んでいるのを見守ってくれているからなんだよね。それにおばあちゃん達が外での遊びを教えてくれたから、外で遊ぶのが好きになったんだ。外で遊んでいると、中学生のトモ兄がたまに一緒に遊んでくれるの。それに勉強で分からない所があるとちゃんと教えてくれるよ。最近は部活とか彼女とか忙しいみたいだけど。

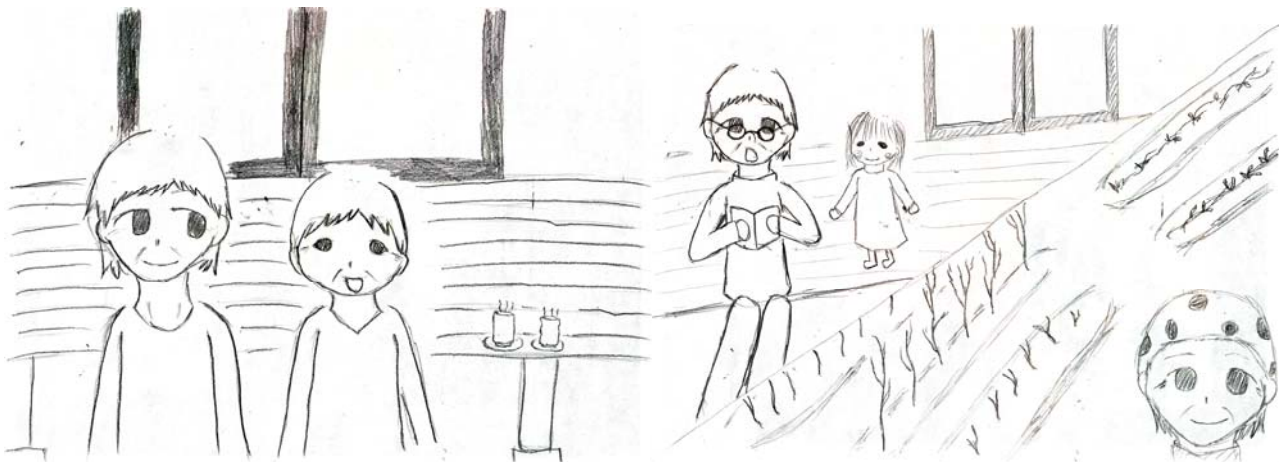
だけどね私も、最近は3歳のルリちゃんのお世話をしているから忙しいんだよ。ルリちゃんは最近入ってきた子だし、小さい子だからお姉ちゃんの私がちゃんと面倒見てあげるんだ。私がトモ兄にしてもらったみたいに、私がルリちゃんにしてあげるの。ルリちゃんの両親も共働きみたいだから、ルリちゃんママが帰ってくるまでは、私がルリちゃんママなんだ。小学校から帰ってきたら、すぐルリちゃんの所にいって一緒にいるんだ。一緒に畑に行ったり、お掃除したりするんだよ。でもルリちゃん箸が使えないから、逆に散らかしちゃっているんだけどね。でも可愛いから許しちゃうんだ。私も早くトモ兄みたいに立派なお姉ちゃんになりたいな。



<SIDE チサト 生きがい>

今日でここに越してきて2年、早いものね。それまではおじいさんに先立たれて一人で暮らしていたけど、息子が「ここに住んだら？」というから来てみたけど、正解だったわ。

朝起きたら、自分の分だけじゃない、ここに住むみんなの分の朝ごはんをトキさんやハナさんと一緒に作って、みんなで食べる。みんな眠そうな顔をしながら起きてきてね、そんな顔を見るのも一つの楽しみね。みんなを会社やら学校へ送ってからは、トキさん、ハナさんと旦那さんのテツさんの老人グループでのんびり過ごすの。



最近ルリちゃんという3歳の可愛い子が来て、その子の面倒をみるのが多いわね。ここの集合住宅が所有している畑で野菜を育てているのだけれど、その世話をするのも楽しいものよ。育てたものを自分たちで食べるのって特別おいしく感じるものよ。3時ごろにはサキちゃんが帰ってきてルリちゃんのお世話をしてくれるの。ほんとの姉妹みたいで微笑ましいわ。たまに学校のお友達と一緒に帰ってきて、駆け回っているのをみるとこっちまで楽しくなってくるのよ。5時くらいから夕御飯の準備を始めるのだけれど、この時はサキちゃんが手伝ってくれるの。早く帰ってこられたお母さんたちやOLのマユさんも手伝ってくれて、朝よりちょっと豪華になるのよ。そういう時は洋食を教えてもらったりしてね。幾つになっても勉強することはあるものね。その後は自分の家の中で過ごすことが多いけど、たまに大学生のコジロウ君の帰りが遅かったり、宿題を遅くまでやっているような時はお夜食を用意したりするわ。

ここに越してきてから、毎日が充実している。今までは、一人で外に出かけることもなく、楽しい事もなくつまらない日々を送ってきただけ、ここは違う。私みたいな歳になってもまだまだ人生楽しくやっていけるって実感するわ。

LARKSPUR 「陽気」を花言葉に持つ花  
HOME 家族  
Home Larkspur 陽気な家族



近年の集合住宅では、作れない絆をここではつくっていきける。その絆は、血の繋がりなどではない、もっと特別で深いモノである。

### 3. 終わりに

今、日本は少子高齢化です。そんななか老人ホームやヘルパー、保育園の受け入れ態勢や子供の態度など様々な問題が出てきています。そういった問題を少しでも解決できるようなプランを提案したつもりです。コレクティブハウスという近年普及し始めたスタイルを私なりに発展させることで、近年減りつつある地域交流を復活させることが目的です。その中では老人に生きがいを与え、働き盛りに暮らしやすい環境を与え、子供達には社会性を与える、そんな場所になって欲しいと思います。